

背景

OSSH事業は、先進的な理数系教育を通じた国際的に活躍しうる科学技術人材の育成を目的として、平成14年より事業を開始し、一定の成果を上げている。

事業開始から約20年が経過しており、多様な指定校の取組が展開している。

OSSH指定校としての長年の活動の成果をもとに、これまでのノウハウや特色・強みを活かし、一定の指定期間を終了した後、独自にSSH指定校の取組を継続することを検討している学校が出始めていることから、従来の予算支援の取組とは別に、新たな「認定制度（仮）」を創設し、科学技術人材育成のモデルとしてこれまでの研究開発の成果を基にした多様な実践活動を普及・展開することを通じて、SSH事業全体の取組の質の向上を図り、科学技術人材育成システム改革をより強力に推進する。



事業枠(予算支援あり)

我が国の次代を担う

科学技術人材育成システム改革を先導

- ◆ 異能・異才を含めた理数系トップ人材の育成
 - ◆ 地域に根差した科学技術人材の育成
 - ◆ 新しいコンセプトを取り入れた科学リテラシー教育手法の開発 など
- (例)
- ・先進的・創造的なSTEAM教育
 - ・SDGs、ESDのコンセプトを取り入れた教育
 - ・AI時代を担うデータサイエンス人材の育成 など

連携



認定枠（仮）

科学技術人材育成のモデルとして

これまでの研究開発の成果を基にした

多様な実践活動を普及・展開

- ◆ 各指定校の特色・強みを生かした取組を継続
- ◆ 「SSH指定校」としての認知度・ブランドを活用

【認定制度（仮）の概要】

- 「課題研究」や「理数探究」を中心としたコアとなるカリキュラムや教育活動の確立、校内体制等、特定の条件を満たす学校を指定。教育課程の特例への申請も可能とする。
- 対象校：一定数以上のSSHの実績のある学校（一定の要件を備えた経過措置校、元指定校含む）
- 認定期間：原則として5年間を想定
- 全国規模の生徒研究発表会・情報交換会等への参加が可能
- 制度の運用は、令和4年度以降を想定

全国各地域において、両者が連携し、SSH事業の取組を展開

SSH指定校としての体制・取組等の確立

- 「課題研究」や「理数探究」を中心としたコアとなるカリキュラムや取組の実施、SSH型学校経営の実施
- 自らの強みや、教科間連携、学校全体として組織的に研究開発等に取り組む体制を確立

SSH事業全体を活性化するとともに、科学技術人材育成システム改革を強力に推進